



2024年10月期 第1四半期

決算説明資料

2024年3月8日

トビラシステムズ株式会社（東証スタンダード 4441）

目次

1. 決算ハイライト、事業概要
2. 2024年10月期 第1四半期 トピック
3. 2024年10月期 第1四半期 業績
4. Appendix

01 | 決算ハイライト、事業概要

2024年10月期 第1四半期 決算ハイライト

売上高

567百万円

前年同期比
116.4%

営業利益

202百万円

前年同期比
111.2%

モバイル向け

売上高

397百万円

前年同期比 110.0%

- 2023年12月より固定契約モデルの契約更改による契約金額アップ、280blockerの販売が好調に推移したことにより、安定的に成長

固定電話向け

売上高

51百万円

前年同期比 116.7%

- ケーブルプラス電話向けオプションサービスの利用者増加により、116.7%の成長

ビジネスフォン向け

売上高

113百万円

前年同期比 173.6%

- トビラフォン Biz、トビラフォン Cloud の販売が順調に推移
- ビジネスフォン向けフィルタサービスは過去最高の売上高を連続で更新

私たちが目指す世界

企業理念・行動指針

私たちの生活 私たちの世界を
よりよい未来につなぐトビラになる

テクノロジーで社会課題の解決に挑みます

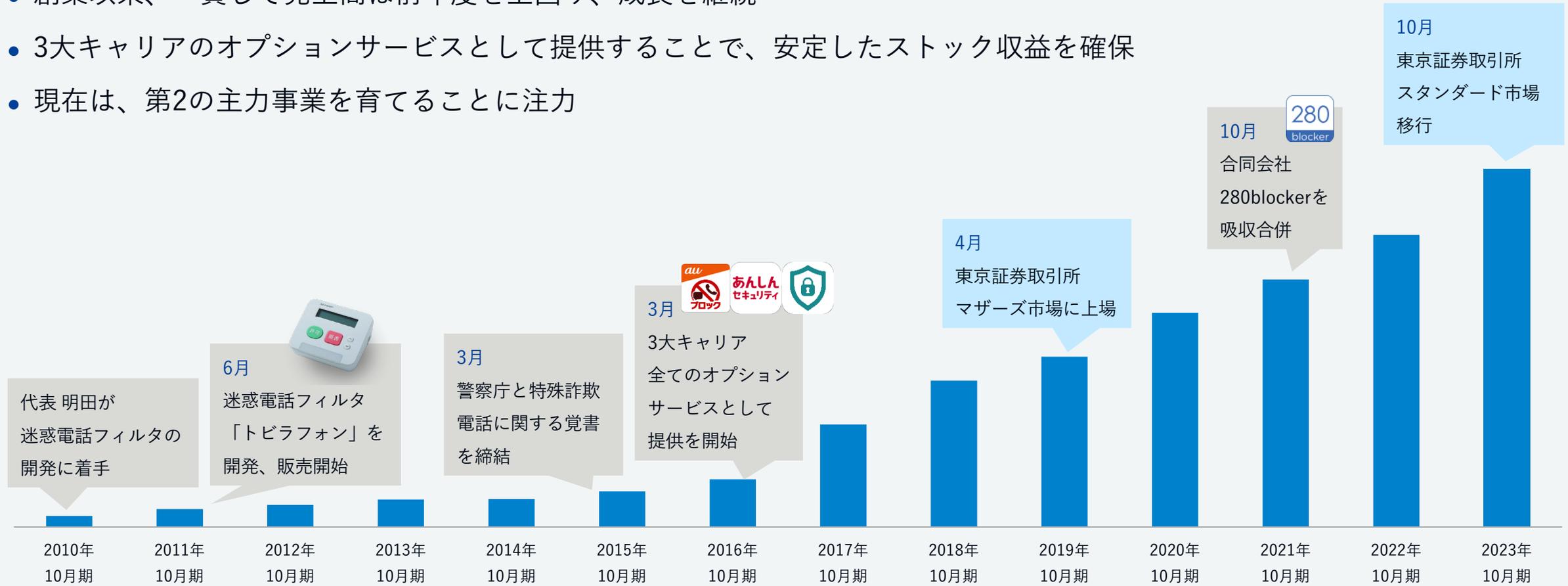
私たちは素晴らしい未来を想像し、失敗を恐れず変化を続け、常識を疑いあるべき形を追求します。

社会的課題を解決する、人々の役に立つ製品を次々に生み出し、持続的かつ発展的に成長するため適切な利益を得ます。

自分と大切な人が幸せな時間を送れる環境であり続けることが、私たちの成長や世界中の人々の生活の向上につながっていきます。

これまでのトビラシステムズの成長の軌跡*

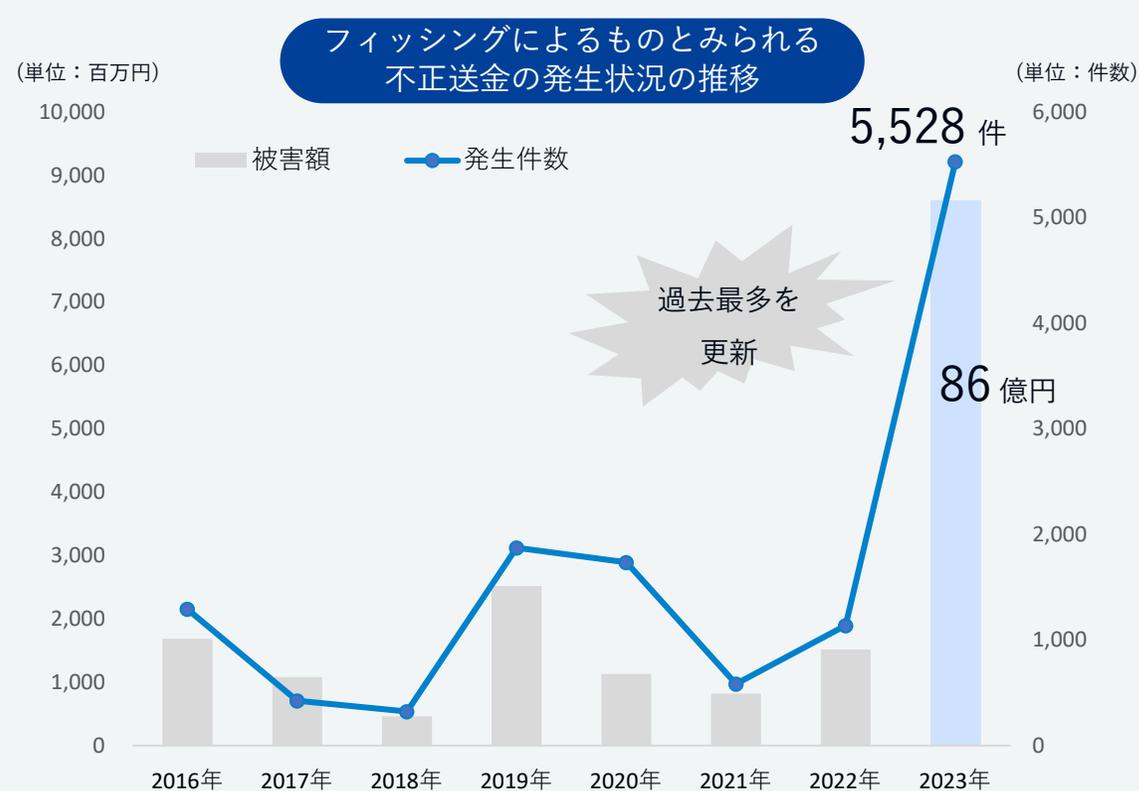
- 創業以来、一貫して売上高は前年度を上回り、成長を継続
- 3大キャリアのオプションサービスとして提供することで、安定したストック収益を確保
- 現在は、第2の主力事業を育てることに注力



*：棒グラフは当社の売上高

取り巻く社会課題の状況*

- 2023年の特殊詐欺の被害額は441億円に上り、一日あたりに換算すると約1億2,000万円の被害額
- インターネットバンキングでの不正送金被害の多くはフィッシングによるもの。2023年は被害額・発生件数ともに過去最多



*：警察庁「令和5年の犯罪情勢」

当社独自調査による、迷惑電話をめぐる最新トピック*1

- 1月1日の令和6年能登半島地震発生後、不用品買取やリフォームなどの悪質営業・勧誘の電話が増加
- 被災地周辺ではリフォームの悪質営業・勧誘電話が増加。災害に便乗した特殊詐欺や悪徳商法に注意が必要

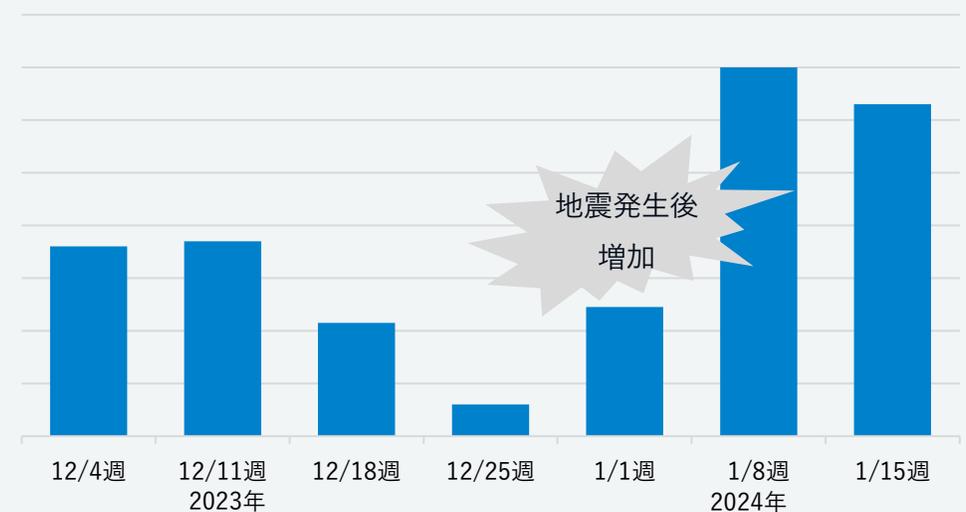
悪質営業・勧誘電話の着信件数推移

- 悪質営業・勧誘を行っている可能性がある電話の着信件数が、当社データベース上で増加したことを確認*2



被災地周辺のリフォームに関する悪質営業・勧誘電話の着信件数推移

- 「リフォーム」に関する悪質営業・勧誘の電話は、被災地やその周辺地域で特に増加傾向が見られた*3



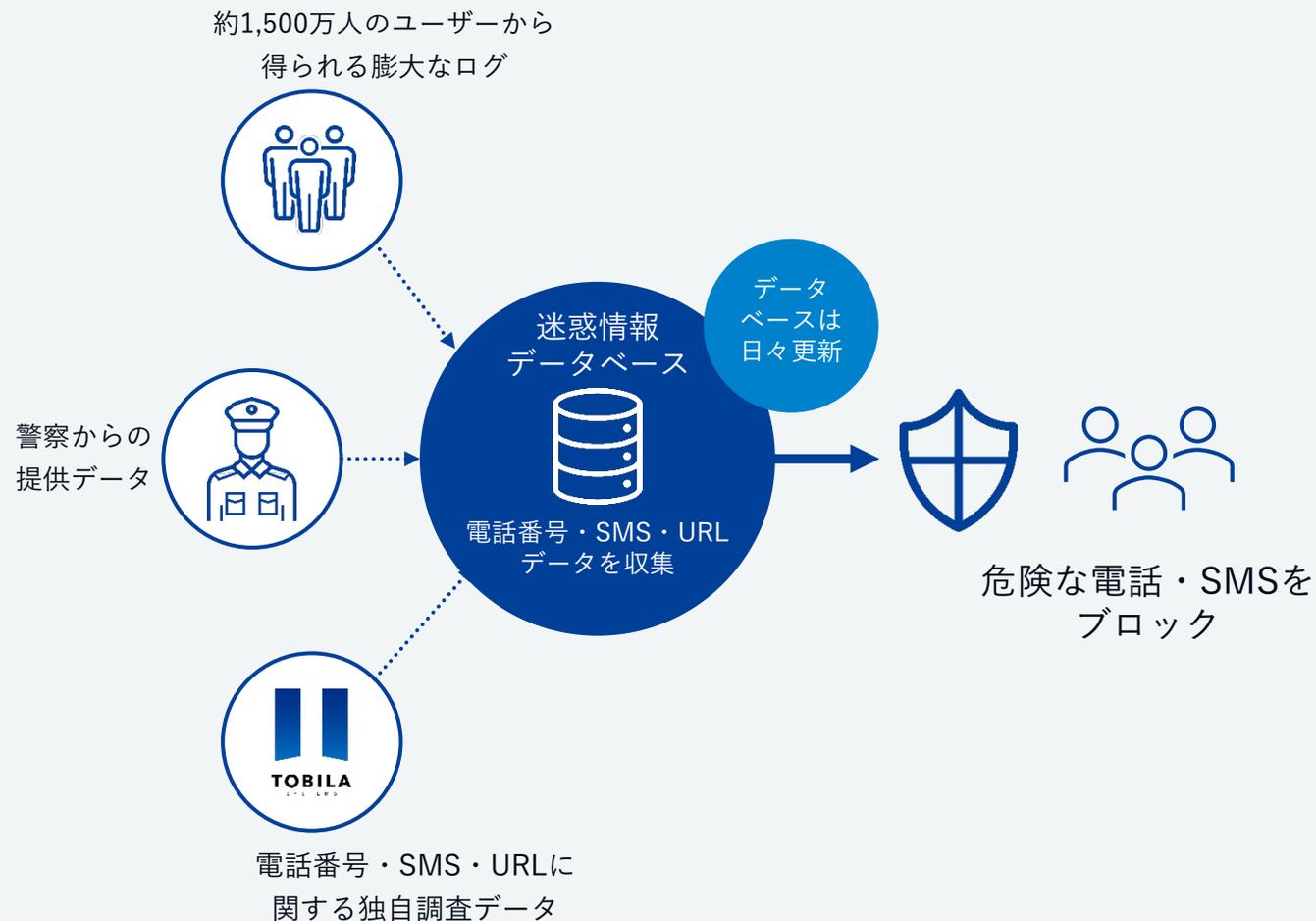
*1: プレスリリース「トビラシステムズ 特殊詐欺・フィッシング詐欺に関するレポート (2023年12月)」

*2: 当社の迷惑情報フィルタサービス利用者を対象に、令和6年能登半島地震発生後、当該悪質営業・勧誘を行う電話番号の中で特に活発化の動きが見られる番号からの着信件数を集計したもの。

*3: 最大震度7を観測した2024年1月1日16時10分の石川県能登地方を震源とする地震で、震度5以上を観測した地域における当社の迷惑情報フィルタサービス利用者（固定電話向け）を対象に、当該悪質営業・勧誘を行う電話番号からの着信件数を週毎に集計したもの。

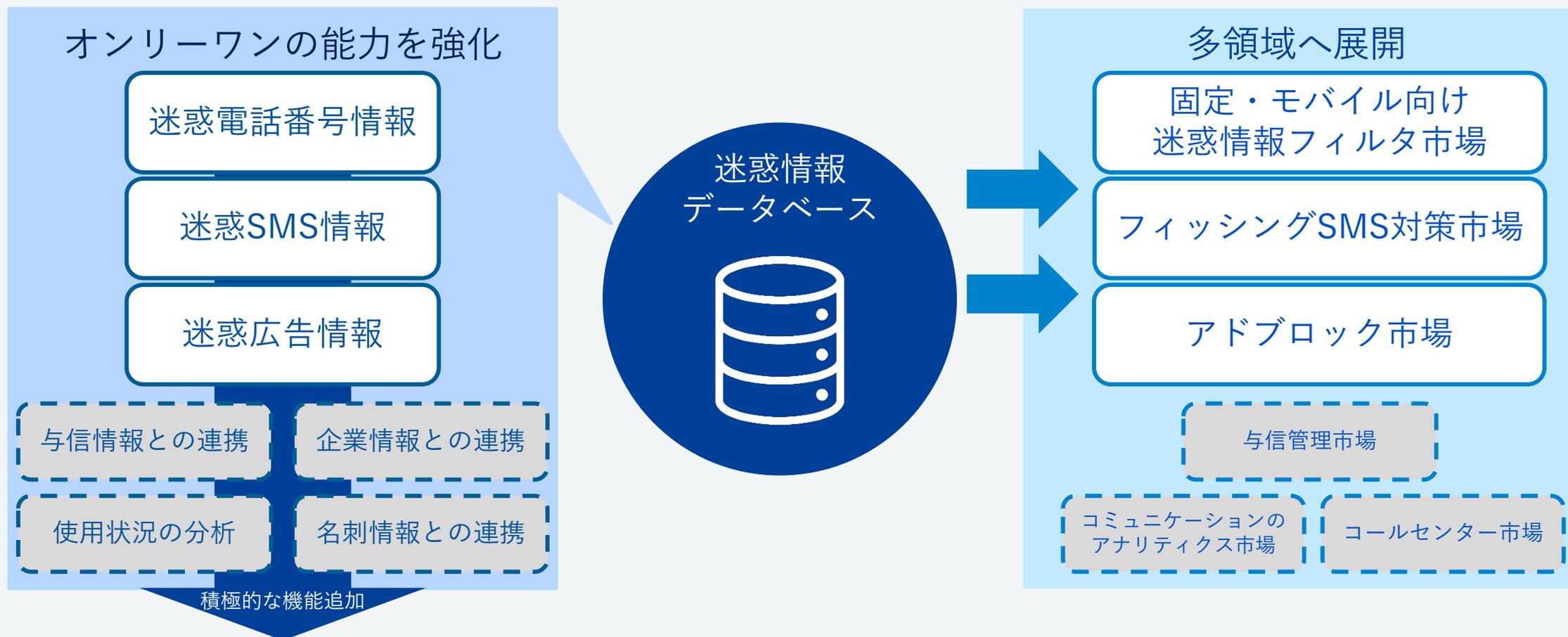
トビラシステムズの強み：迷惑情報データベース

- 危険な電話番号・SMSに記載されているURL等をブラックリスト化し、ブロックする仕組みを提供
- 警察から、実際に犯罪や攻撃に使われたとみられる電話番号・URLのデータ提供を受けており、当社の強みの1つ
- 利用者が多くなるほどデータが蓄積され、データベースの精度が高まる循環システムを確立



トビラシステムズの成長戦略

- 成長戦略は、唯一無二の迷惑情報データベースの価値を向上させ、その強みが発揮できる市場へ展開すること



サービス内容

- 迷惑情報フィルタ事業は「モバイル向け」・「固定電話向け」・「ビジネスフォン向け」の3つのサービスを展開し、電話を全方位からカバー

モバイル向け



280
blocker

- 主に通信キャリアのアプリとして提供
- 迷惑電話、迷惑SMSをブロック
- 不快な広告をブロック

固定電話向け



- 外付け型、機器内蔵、ネットワーク網まで様々なタイプでサービス展開
- 不要な営業電話や詐欺電話をブロック

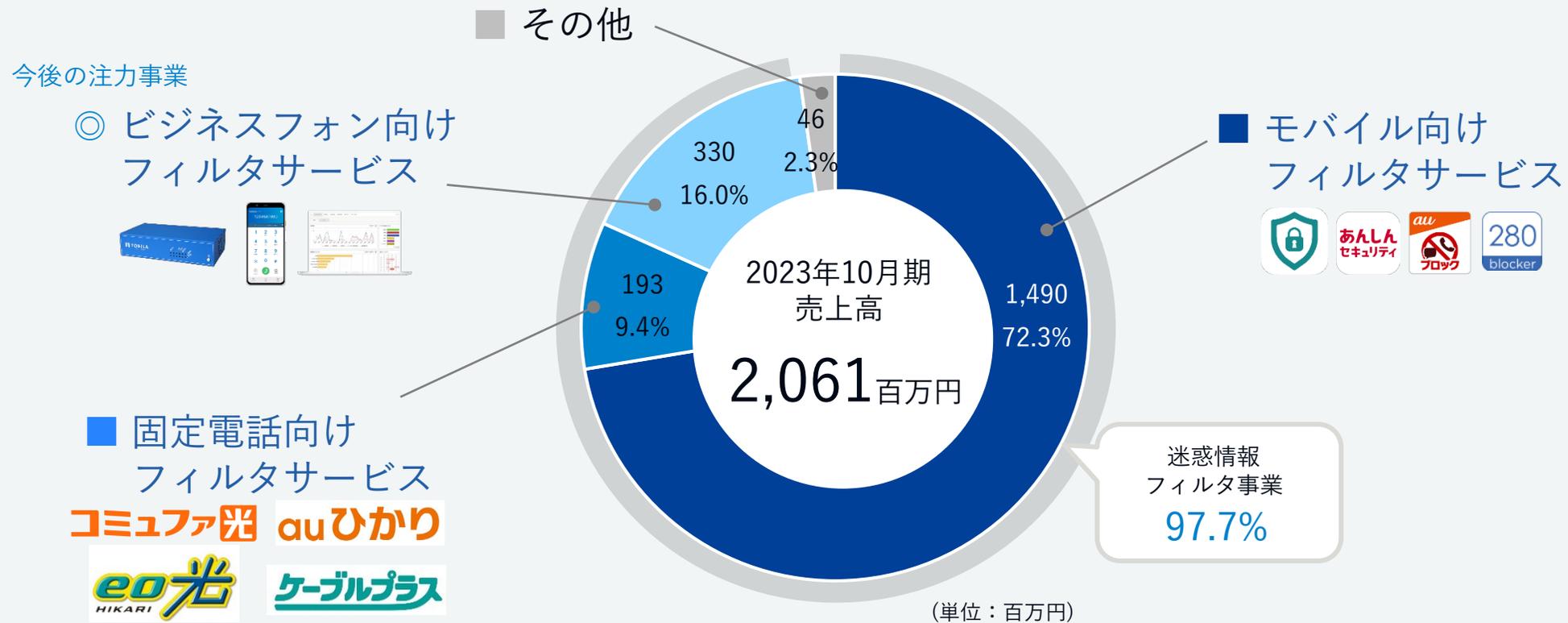
ビジネスフォン向け



- 法人向けサービス
- 電話業務の効率化やDXを促進

事業セグメント（2023年10月期通期）

- 主力事業は、迷惑情報フィルタ事業であり、中でもモバイル向けフィルタサービスの売上が72.3%を占める
- モバイル向けの安定収益を基盤に、成長分野であるビジネスフォン向けフィルタサービスへ注力

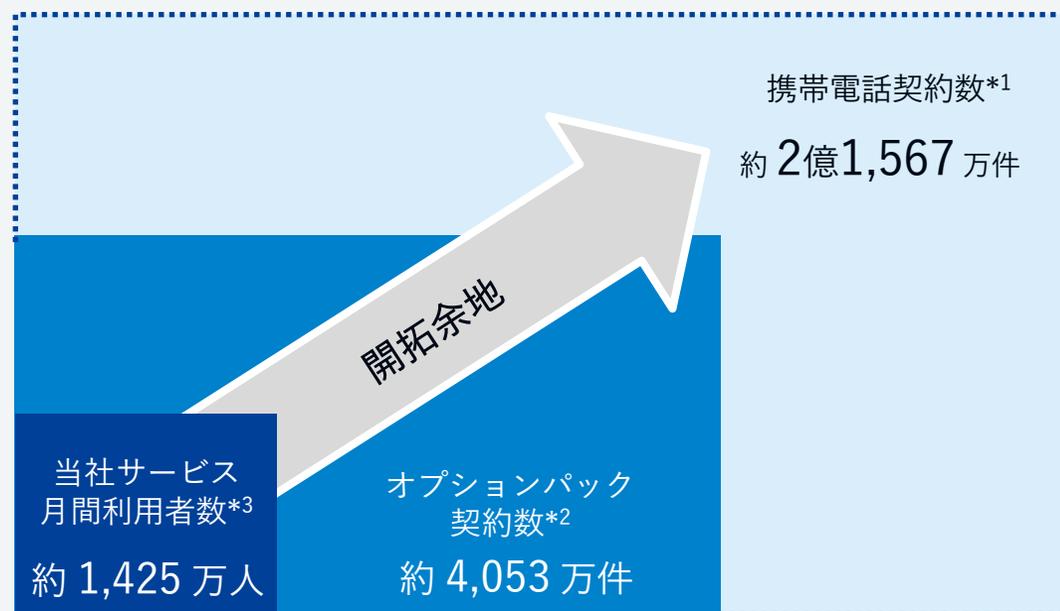


モバイル向け

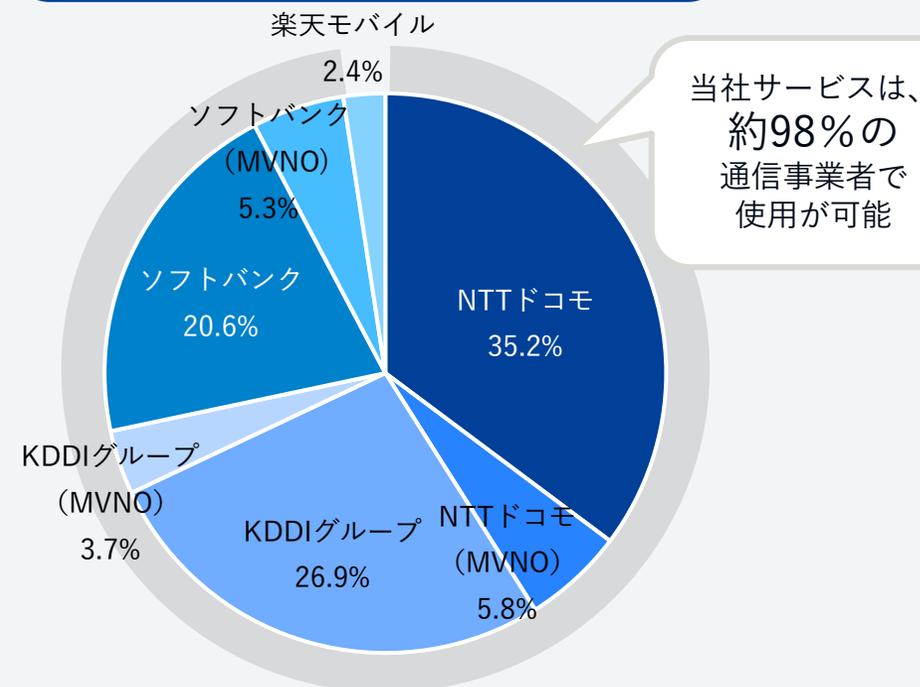
モバイル向けに関する市場規模

- 現在、追加で料金を支払うことなく当社サービスを利用できるユーザーは約4,053万人以上
- 大手通信キャリアに当社サービスを提供しており、サービス利用に向けた効果的な活動が可能

潜在市場規模



モバイル回線企業別シェア状況



*1：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェア」四半期データ（2023年12月22日公表）

*2：ソフトバンクは当社把握データ、auはKDDI株式会社公表の2024年3月期 第3四半期決算詳細資料よりスマートパスプレミアム契約数、NTTドコモは2018年12月19日公表のオプション契約者数より当社推定。

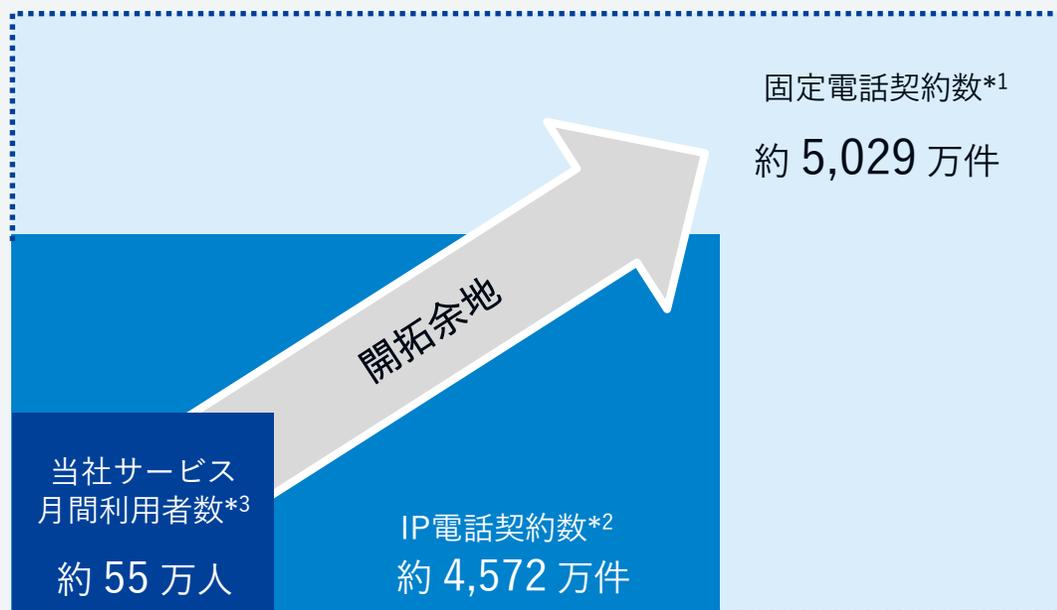
*3：2024年1月31日時点。一部暫定値が含まれております。今後確定値が反映された場合に、多少の増減が発生する可能性があります。

固定電話向け

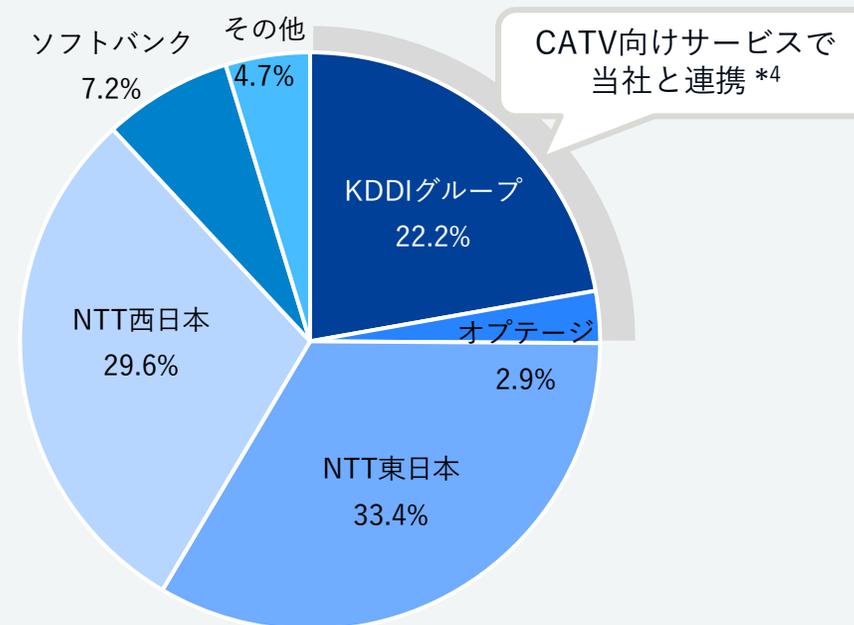
固定電話向けに関する市場規模

- 2024年1月よりNTT東日本およびNTT西日本は、固定電話回線を順次IP網へ移行しており、固定電話回線からIP電話への移行需要が増加するため、当社にとって成長機会と捉えている

潜在市場規模



固定電話回線企業別シェア状況



*1、*2：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェア」四半期データ（2023年12月22日公表）

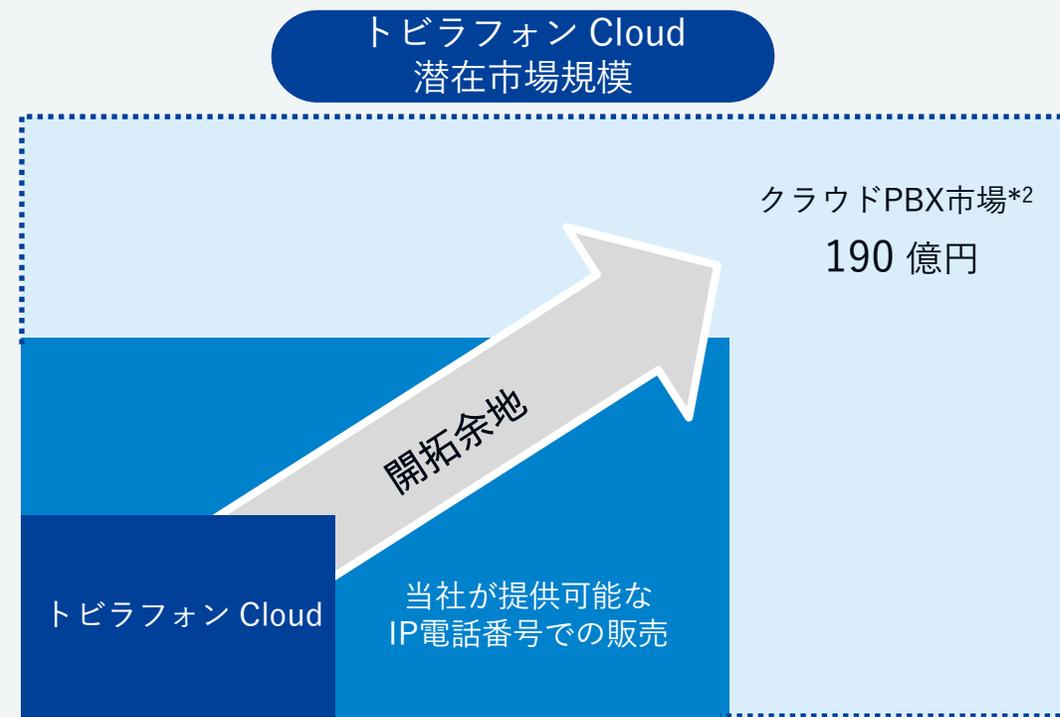
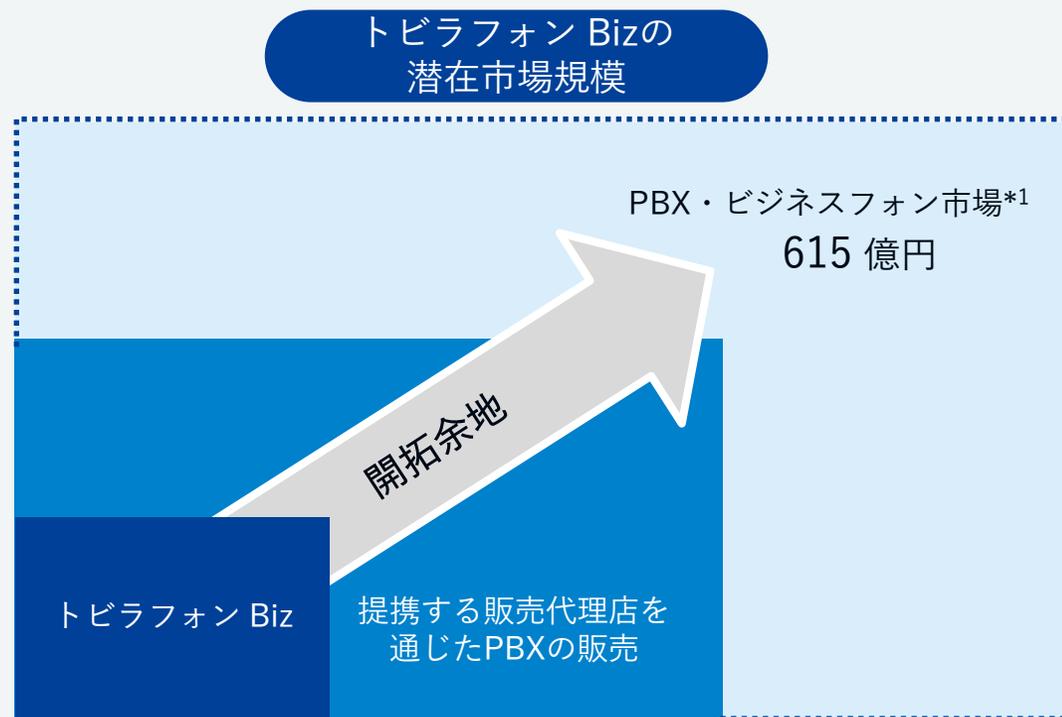
*3：2024年1月31日時点。一部暫定値が含まれております。今後確定値が反映された場合に、多少の増減が発生する可能性があります。

*4：プレスリリース「国内初、専用機器不要で固定電話への迷惑電話を自動遮断する「迷惑電話自動ブロック」を提供」

ビジネスフォン向け

— ビジネスフォン向けに関する市場規模

- 「トビラフォン Biz」はPBXに付帯する装置であり、PBX・ビジネスフォンの市場規模は615億円
- 「トビラフォン Cloud」を展開するクラウドPBX市場は190億円であり、PBX市場からの転換により市場は拡大傾向にある



*1：CIAJ「通信機器中期需要予測2022-2027年度」よりPBXおよびボタン電話装置の2022年度実績合計

*2：富士キメラ総研「2022 コミュニケーション関連マーケティング調査総覧」より2022年度見込

02

2024年10月期第1四半期トピック

モバイル向け・ビジネスフォン向け

2024年10月期の業績に寄与する当社の動向

- 2023年10月期通期の決算説明資料でも記載のとおり、モバイル向けでは、「固定契約」モデルにおける単価アップ、ビジネスフォン向けでは「トビラフォン Biz」の単価アップにより、収益増加へ貢献

モバイル向け

「固定契約」*1モデルにおける単価アップ

固定契約
(定額契約)

- 2023年12月より、契約更改により、「固定契約」モデルの契約金額を引き上げ
- 第1四半期では、単価アップの売上寄与は2か月分

ビジネスフォン向け

「トビラフォン Biz」の単価アップ



トビラフォン Biz

- 2023年11月より、端末販売価格を引き上げ
- フロー収益へ寄与*2

*1：「固定契約」：契約者数や月間利用者数の変動に影響を受けない、契約金額固定のモデル

*2：IR note 「「トビラフォン Biz」の収益構造を解説！」 <https://note.com/tobila4441/n/n50a4deeb6e12>

モバイル向け

「280blocker」が2023年App Store トップ有料アプリランキングで1位を獲得*

App Store
トップ有料 iPhone アプリ

2023年ランキング
1位



iOS版ダウンロード



Android版ダウンロード



*: プレスリリース「トピラシステムズ提供の広告ブロックアプリ「280blocker」が2023年トップ有料iPhoneアプリランキングで1位獲得」

ビジネスフォン向け

「トビラフォン Cloud」の認知向上に向けた施策を継続

- 展示会への出展や、「ITreview Grid Award 2023 Winter」の3部門で、最高位の「Leader」を8期連続受賞*1
- 「BOXIL SaaS AWARD 2024」のSaaS セクション PBX 部門で1位に選出*2

新規リード獲得施策



- 2024年1月11-12日に東京ビッグサイトで開催された「ビジネスIT & SaaS EXPO (BIS) 2024」に出展
- 普段の取引先層とは異なるターゲット層へのセールス活動

各賞を受賞



- 「ITreview Grid Award 2024 Winter」のクラウドPBX部門、IVR部門、IP電話アプリ部門の3部門で、最高位の「Leader」を受賞
- クラウドPBX部門3年連続「Leader」受賞
- 「BOXIL SaaS AWARD 2024」BOXIL SaaSセクションPBX部門1位
- 「BOXIL SaaS AWARD Spring 2024」のPBX部門においても「Good Service」ほか8つのNo.1に併せて選出

*1: プレスリリース「「トビラフォン Cloud」、ITreview Grid Award 2024 WinterのクラウドPBX部門で3年連続「Leader」受賞。IVR、IP電話アプリ部門でも連続受賞」

*2: プレスリリース「トビラフォン Cloud、「BOXIL SaaS AWARD 2024」BOXIL SaaSセクションPBX部門1位に選出」

ビジネスフォン向け

「トビラフォン Biz」の販売は順調に推移。連携機能を拡充し販売促進に努める

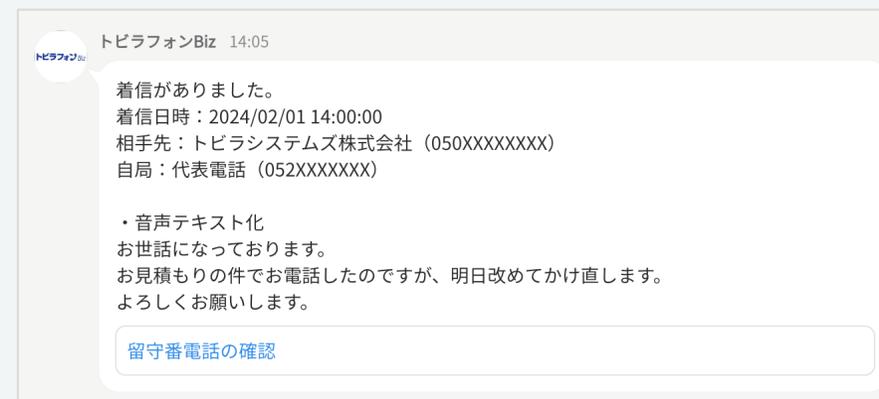
- 「トビラフォン Biz」はNTT東西のセレクトアイテムに選定以降、順調に販売台数が増加
- 2024年2月には、NTT西日本が提供するビジネスチャット「elgana®」と連携*

トビラフォン Bizの累計販売台数



連携機能の強化

連携することで、「トビラフォン Biz」での不在着信や着信拒否した電話情報を「elgana®」のチャットに自動で通知



*：プレスリリース「トビラシステムズのビジネスフォン向け製品「トビラフォン Biz」がNTT西日本のビジネスチャット「elgana®」と連携可能に」

全社

特設サイト「詐欺SMSモニター」をリリースし、リアルタイムで詐欺SMSの状況を可視化

- 詐欺SMSについての最新情報を知り、被害防止に役立てていただくことを目的に、2024年2月1日より特設サイト「詐欺SMSモニター」を期間限定で公開*

リアルタイム詐欺SMS検知グラフ

詐欺SMS件数

直近48時間

Androidマルウェア感染端末台数メーター

Androidマルウェア感染端末台数

14,831

最終更新日: 2024年1月31日

詐欺SMSに関する豆知識

どうやってマルウェアに感染するの？誘導する「偽通知」に注意

アップデートをすすめる偽通知

詐欺SMS怖い！アップデートしなげや！

詐欺SMSギャラリー

宅配事業者 注意喚起

NEW お届けしようとした荷物がありますが、ご不在のため、局でのお引き取りをお願いします。[URL]

ポストする 掲載日: 2024年01月31日

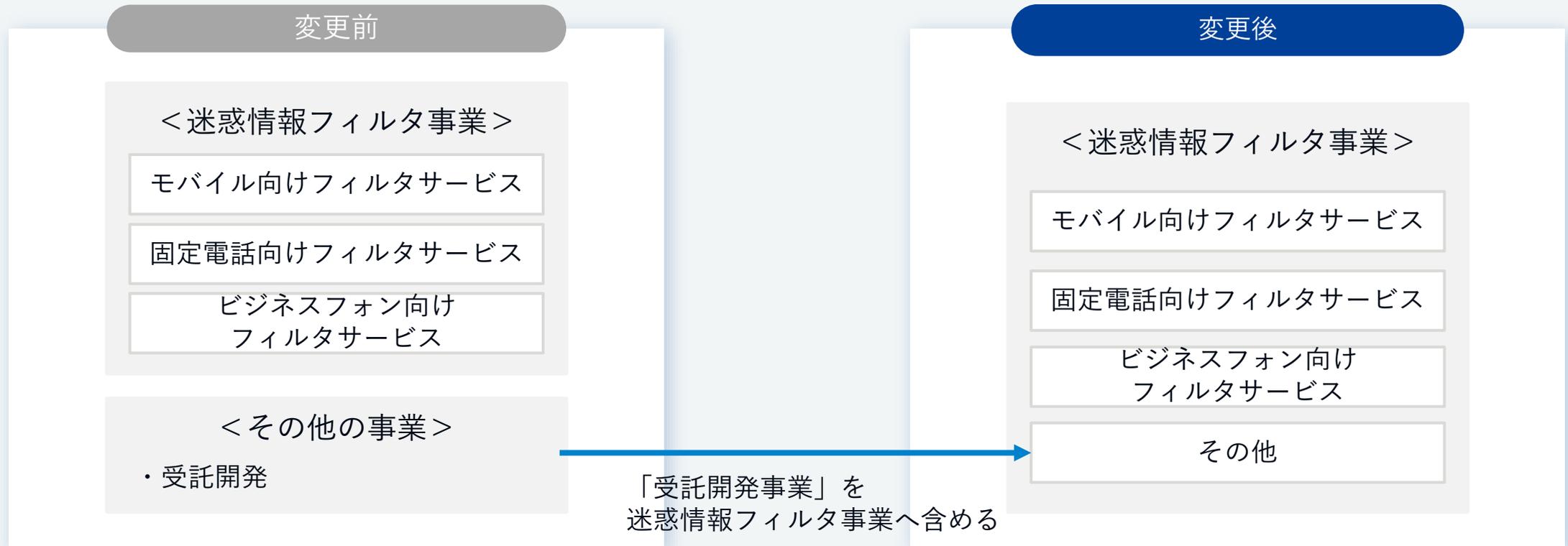
*: プレスリリース「トピラスシステムズ、サイバーセキュリティ月間にフィッシング詐欺のリアルタイム観測サイト「詐欺SMSモニター」公開」

03

2024年10月期 第1四半期 業績

報告セグメントの変更に関するお知らせ*

- 前期に「HP4U」を事業譲渡したことにより、「その他の事業」の重要性が乏しくなったため、受託開発事業を迷惑情報フィルタ事業へ含め、「迷惑情報フィルタ事業」の単一セグメントに変更



*：ホームページ制作運営支援事業「HP4U」は、2023年9月30日に事業譲渡

2024年10月期 第1四半期業績サマリー

- 売上高、各利益とも前年同期比で110%以上となり、四半期売上高は過去最高を更新
- 前四半期や当四半期に計上した特別利益の影響を除いた場合、純利益も前四半期比で増加

(単位：百万円)	2023年10月期 1Q（前年同期）	2023年10月期 4Q（前四半期）	2024年10月期 1Q実績	前年同期比	前四半期比
売上高	487	531	567	116.4%	106.9%
EBITDA*	222	212	247	111.1%	116.2%
営業利益	182	161	202	111.2%	125.5%
経常利益	181	159	201	111.0%	126.7%
純利益	120	175	155	128.7%	88.6%

*：EBITDAは「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出

2024年10月期 第1四半期 サービス別売上内訳

- モバイル向けは、「固定契約」モデルの契約更改と「280blocker」の販売伸長等により着実に成長
- ビジネスフォン向けは、「トビラフォン Biz」「トビラフォン Cloud」の販売が概ね計画どおりに推移し、高い成長を継続
- 前期に「HP4U」の事業譲渡を行ったこと等により、「迷惑情報フィルタ事業」の単一セグメントに変更

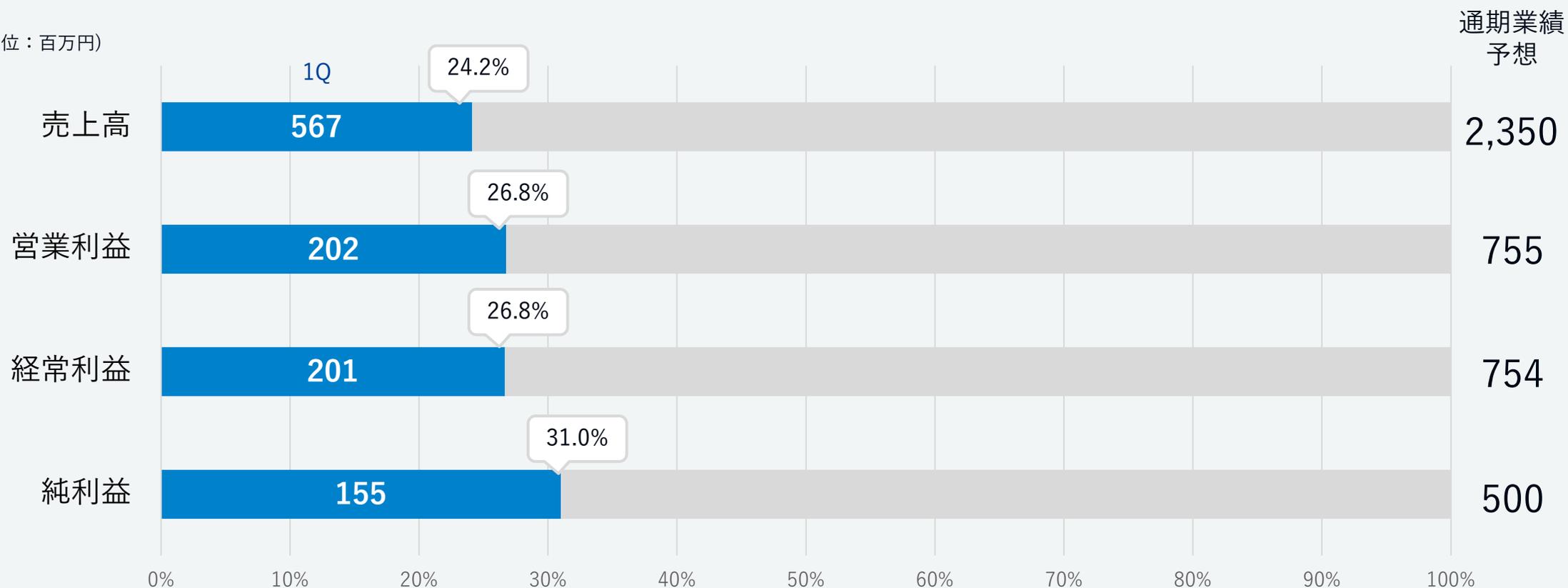
(単位：百万円)	2023年10月期 1Q（前年同期）	2023年10月期 4Q（前四半期）	2024年10月期 1Q実績	前年同期比	前四半期比
<迷惑情報フィルタ事業>	471	523	567	120.5%*	108.5%*
モバイル向け	361	378	397	110.0%	104.9%
固定電話向け	44	50	51	116.7%	102.2%
ビジネスフォン向け	65	93	113	173.6%	120.8%
その他	—	—	5	—	—
<その他の事業>	16	7	—	—	—

*：2024年10月期1Qより、これまで「その他」としていた事業を「迷惑情報フィルタ事業」に含めて集計

2024年10月期 業績予想に対する進捗

- 通期の業績予想に対し、売上高、各利益ともに順調に進捗。純利益には保有有価証券の売却益を含む
- 各利益は25%を上回る進捗であるが、通期としては計画どおりの着地を見込む

(単位：百万円)



売上高四半期推移（ストック収益、フロー収益）

- 売上高は主にストック収益で構成されており、ストック収益は前年同期比112.6%と着実に成長
- フロー収益には「280blocker」の売上、「トビラフォン」及び「トビラフォン Biz」の端末代金等を含む

（単位：百万円）



*：フロー収益は、280blockerの売上、トビラフォン及びトビラフォン Bizの端末代金等を含む

モバイル向けフィルタの主な契約モデル*

- 大手通信キャリアのオプションパックに当社サービスを組み込み、3種類の契約モデルをそれぞれ締結
- 通信キャリアを通じて販売するため、当社はアプリの精度向上に注力することが可能

固定契約 (定額契約)

契約者数や月間利用者数の変動に影響を受けない、契約金額固定のモデル

固定契約 (定額契約)

- 毎月定額でサービス提供
- 契約者数、月間利用者数の変動に影響を受けないため、安定した収益を確保

契約者×単価

当社サービスが利用可能なオプションパックの契約者数に連動する契約

契約者数 × 単価

- 格安スマホ等へ移行する流れによりオプションパック契約者数は減少傾向
- 当社サービス利用者数は増加傾向

月間利用者数×単価

当社サービスの月間利用者数に連動する契約

月間利用者数 × 単価

- 当社サービスの月間利用者数については、注視する状況ではあるが、サービス利用に向けた効果的な活動が取りやすい形態

* : IR note 「<モバイル向けフィルタサービス>契約モデルの違いは？」 <https://note.com/tobila4441/n/n71f22dbaab6d>

モバイル向け

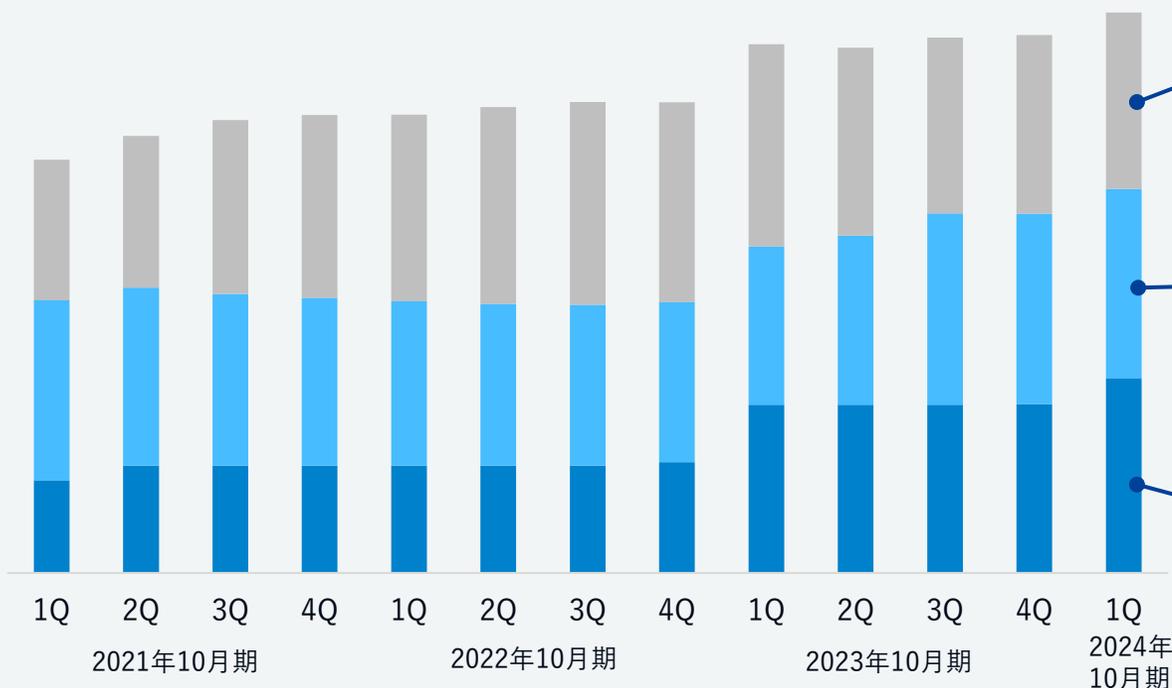
主な契約モデル別の四半期推移

- 「固定契約（定額契約）」モデルについて、12月より金額アップの契約更改となったことから売上高が増加
- 利用者数の減少に対しては、通信キャリアと連携し、その分析や対応施策を検討

主な契約モデルの売上構成（四半期推移）*

売上高・月間利用者数の推移（前四半期比）

2023年4Qと2024年1Qの売上高および月間利用者数を比較



● 「月間利用者数×単価」モデル

売上高 : 98.7%
月間利用者数 : 98.1%

● 「契約者数×単価」モデル

売上高 : 99.4%
月間利用者数 : —%

アプリの切替期間で重複利用者数の調整が困難
比較情報に適さないため不掲載

● 「固定契約（定額契約）」モデル

売上高 : 115.3%
月間利用者数 : 98.6%

金額アップでの契約更改により増加

* : 売上高、月間利用者数ともに、3大通信キャリアの契約のみ対象。格安スマホ等MVNOの契約は数値に含んでおりません。

売上原価の推移

- 売上原価全体*¹では、計画どおりにコントロール
- 通期では712百万円の見通しに変更なし

(単位：百万円)



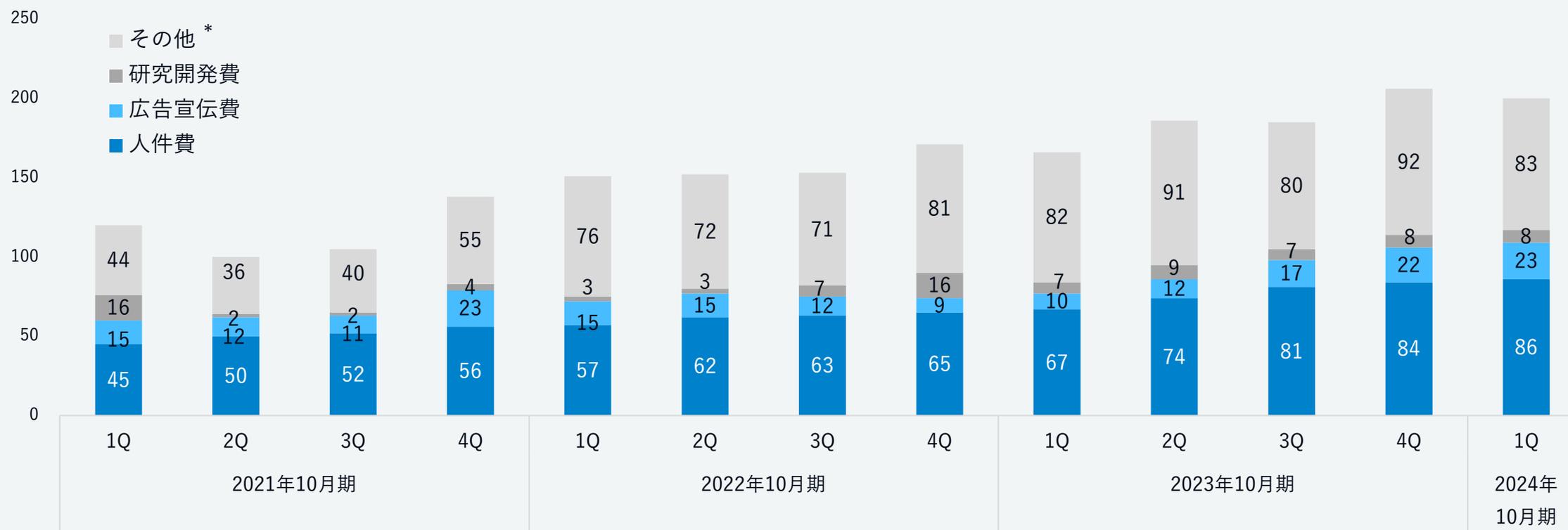
*1：労務費、減価償却費、その他の合計は、他勘定振替や仕掛品振替の調整前であり、財務諸表の売上原価合計とは異なる

*2：他勘定振替率は、売上原価のうち、主に従業員の活動内容の種類から、研究開発費及び資産等に計上された割合

販管費の推移

- その他が前四半期比で減少しているが、採用時期の後ろ倒しによるものであり、概ね計画どおりにコントロール
- 通期では883百万円の見通しに変更なし

(単位：百万円)



*：「その他」に含まれるものは、のれん償却額や減価償却費、支払手数料等

営業利益の推移

- 売上高の着実な成長や販管費における採用時期の後ろ倒しにより、四半期での営業利益は過去最高
- 通期では755百万円の見通しに変更なし



コスト推移（四半期）

(単位：百万円)	2023年10月期 1Q（前年同期）	2023年10月期 4Q（前四半期）	2024年10月期 1Q実績	前年同期比	前四半期比
売上原価	138	162	163	118.2%	101.0%
（労務費）	64	75	72	112.2%	95.4%
（減価償却費）	20	30	23	114.9%	79.1%
（その他）	79	87	85	108.3%	98.1%
（開発分の他勘定振替率*）	15.7%	16.1%	10.1%	▲5.6pt	▲6.0pt
販売費及び一般管理費	167	207	201	120.7%	97.0%
（人件費）	67	84	86	127.8%	102.1%
（広告宣伝費）	10	22	23	227.7%	102.1%
（研究開発費）	7	8	8	113.8%	100.2%
（その他）	82	92	83	102.1%	90.8%

*：売上原価のうち、主に従業員の活動内容の種類から、研究開発費及び資産等に計上された割合

BS推移

- 現金及び預金や純資産の減少は主に自己株式の取得による

(単位：百万円)	2023年10月期	2024年10月期 第1四半期	増減額
流動資産	2,816	2,675	▲ 140
現金及び預金	2,404	2,198	▲ 205
売上債権及び契約資産	254	307	52
その他	156	169	12
固定資産	830	777	▲ 53
有形固定資産	103	94	▲ 9
無形固定資産	405	380	▲ 24
投資その他の資産	322	302	▲ 19
総資産	3,646	3,452	▲ 194
負債	1,510	1,524	14
流動負債	1,314	1,341	27
固定負債	195	183	▲ 12
純資産	2,136	1,927	▲ 209
自己資本比率	58.6%	55.8%	▲2.8pt

— ディスクレーマー —

2024年10月期 第2四半期決算発表は、2024年6月10日（月）16時以降を予定しております。

本決算発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

■ お問い合わせ先
トビラシステムズ株式会社 IR担当
E-mail ir@tobila.com
HPお問い合わせ <https://tobila.com/contact/>

Appendix

— 想定されるご質問に対する回答

カテゴリー	質問	回答
モバイル	「280blocker」の売上伸長の継続性について	<p>「280blocker」アプリの販売については、買い切りモデルとなっているため、フロー収益に含めております。マーケティングの効果もあり「280blocker」の売上が伸長しておりますが、その他の要因もあることから、傾向については一概に申し上げられません。</p> <p>「280blocker」は「トップ有料 iPhone アプリランキング」で第1位を獲得しておりますので、引き続き販売に向けて注力してまいります。</p>
モバイル	モバイルの「月間利用者数×単価」モデル、「固定契約（定額契約）」モデルにおける利用者数の減少について	<p>お示ししている月間利用者数は、格安スマホ等MVNOの契約は数値に含んでいないものとなりますが、ご指摘の通り、前四半期比で月間利用者数は減少しております。その要因、対応策については、通信キャリアとも連携しながら進めてまいります。</p>
ビジネスフォン	ビジネスフォン向けサービスの通期計画に対する進捗と、今後の展開について	<p>2024年10月期のビジネスフォン向け売上高は579百万円を計画しており、当第1四半期での売上高は113百万円です。進捗率は、19.5%となります。着実に成長をしておりますが、計画に対する進捗はやや遅れていると判断しています。要因の1つは、トビラフォンBizは代理店を通じての販売形態を取っており、代理店の拡充を計画していたもののやや後ろ倒しとなっているためです。引き続き販売拡大に向けて注力してまいります。</p>

2024年10月期第1四半期 オンライン決算説明会のご案内

- Zoomウェビナーを利用したオンライン配信にて決算説明会を開催いたします

開催日時	2024年3月8日（金）18時～19時
開催方法	Zoom ウェビナーを利用したオンライン・ライブ配信
当社説明者	取締役CFO 金町 憲優
参加対象者	どなたでもご参加可能です。
内容	決算説明（30分）、質疑応答（30分）
参加申込方法	下記フォーム、またはQRコードよりお申込みください。  https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_0os2rYgPTGWcLp_2fbUZQw

SNSを活用したIR情報の発信

- Xにて、新たにIR公式アカウントを開設。noteとXを活用し、SNSでの発信を強化
- IR情報やプレスリリースについてのお知らせや、開示資料の解説等を実施。ぜひフォローをお願いいたします

noteを活用したIR情報の発信

決算に関する情報や、株主・投資家の皆さまからいただくご質問についての解説等、noteにて定期的に発信。

「[IR noteマガジン](#)」にも参画しています。



note

<https://note.com/tobila4441>



IR公式アカウントを開設

当社の決算並びに事業の概要について、より一層理解いただくことを目的にIRチームによる公式X（旧Twitter）アカウントを開設しました。



アカウント名：トビラシステムズIR公式

ユーザー名：@tobila_ir

URL：https://twitter.com/tobila_ir



過去の財務状況 四半期業績推移*1

(単位：百万円)	2021年10月期				2022年10月期				2023年10月期				2024年 10月期 1Q
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
売上	335	358	364	366	391	447	411	430	487	521	520	531	567
(迷惑情報 フィルタ事業)	316	335	344	349	377	430	397	415	471	510	509	523	567
(その他事業)	19	22	19	17	14	16	14	15	16	11	10	7	—
売上原価	89	92	92	97	103	147	121	133	138	158	169	162	163
(労務費)	58	62	61	61	58	60	60	65	64	66	71	75	72
(減価償却費)	10	10	11	14	14	17	19	21	20	26	28	30	23
(その他)	48	48	47	62	53	94	74	73	79	86	85	87	85
(開発分の 他勘定振替率*2)	23.7%	23.6%	22.7%	29.2%	18.2%	14.8%	21.1%	17.2%	15.7%	11.6%	9.0%	16.1%	10.1%
販管費	122	102	106	139	153	154	154	173	167	188	186	207	201
(人件費)	45	50	52	56	57	62	63	65	67	74	81	84	86
(広告宣伝費)	15	12	11	23	15	15	12	9	10	12	17	22	23
(研究開発費)	16	2	2	4	3	3	7	16	7	9	7	8	8
(その他)	44	36	40	55	76	72	71	81	82	91	80	92	83

*1：2024年10月期1Qより、従来「その他」としていた事業の重要性が乏しくなったため、「迷惑情報フィルタ事業」の単一セグメントに変更。これまで「その他」としていた事業を「迷惑情報フィルタ事業」に含めて集計

*2：売上原価のうち、主に従業員の活動内容の種類から、研究開発費及び資産等に計上された割合

過去のサービス別 売上高四半期推移*

	2021年10月期				2022年10月期				2023年10月期				2024年 10月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
(単位：百万円)														
<迷惑情報フィルタ事業>	316	335	344	349	377	430	397	415	471	510	509	523	567	
モバイル向け	265	281	290	295	311	331	313	314	361	378	371	378	397	
固定電話向け	38	37	37	34	34	51	38	41	44	47	50	50	51	
ビジネスフォン向け	11	17	16	20	31	48	44	59	65	84	87	93	113	
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
<その他の事業>	19	22	19	17	14	16	14	15	16	11	10	7	—	

*：従来「その他」としていた事業の重要性が乏しくなったため、2024年10月期第1四半期より「迷惑情報フィルタ事業」の単一セグメントに変更。これまで「その他」としていた事業を「迷惑情報フィルタ事業」に含めて集計

2024年10月期の業績見通し

- 成長戦略に向けた投資と成長を両立させ、2024年10月期は売上高23億5,000万円、営業利益7億5,500万円となる見通し
- 純利益については、前期において特別利益を計上しており、その要因を除くと増益となる見通し

(単位：百万円)	2022年10月期 実績	2023年10月期 実績	2024年10月期 見通し	前期比
売上高	1,681	2,061	2,350	114.0%
EBITDA*1	693	870	941	108.1%
営業利益	540	682	755	110.6%
経常利益	532	679	754	111.0%
当期純利益	322	517	500	96.6%
(特別損益を除いた場合の当期純利益)	(350)	(469)	(500)	(106.4%)
営業利益率	32.2%	33.1%	32.1%	-
ROE *2	20.1%	26.9%	22.5%	-
自己資本比率	64.1%	58.6%	56.4%	-

*1：EBITDAは「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出

*2：ROEの分母となる自己資本は期中平均を用いて計算

2024年10月期のサービス別 売上見通し

- 迷惑情報フィルタ事業のすべてのサービスにおいて、2024年10月期も堅調に成長する見通し
- ビジネスフォン向けフィルタサービスにおいては、さらなる成長を目指す

(単位：百万円)	2022年10月期 実績	2023年10月期 実績	2024年10月期 見通し	前期比
<迷惑情報フィルタ事業>	1,621	2,014	2,350	116.7%
モバイル向け	1,271	1,490	1,551	104.1%
固定電話向け	165	193	213	110.1%
ビジネスフォン向け	184	330	579	175.1%
その他	—	—	6	—
<その他の事業>	60	46	—	—

*：従来「その他」としていた事業の重要性が乏しくなったため、2024年10月期第1四半期より「迷惑情報フィルタ事業」の単一セグメントに変更。これまで「その他」としていた事業を「迷惑情報フィルタ事業」に含めて集計

2024年10月期のコストに関する見通し

- 【売上原価】前期の増員による労務費の増加、「トビラフォン Biz」の販売増加に伴う端末代等の増加
- 【販管費】前期の増員による人件費の増加、採用活動費用や販促費用の増加

(単位：百万円)	2022年10月期 実績	2023年10月期 実績	2024年10月期 見通し	前期比
売上原価	505	628	712	113.3%
（労務費）	245	278	320	115.4%
（減価償却費）	72	105	99	93.8%
（その他）	296	339	406	153.6%
（開発分その他勘定振替率*）	17.7%	13.1%	13.9%	0.8pt
販売費及び一般管理費	634	748	883	117.7%
（人件費）	250	308	372	120.6%
（広告宣伝費）	52	63	79	125.9%
（研究開発費）	30	31	37	117.3%
（その他）	301	344	391	113.7%

*：売上原価のうち、主に従業員の活動内容の種類から、研究開発費及び資産等に計上された割合

